

ビールビ・ポーティアス『イギリス領西インド諸島における
総督，立法府，プランテーション経営者への書簡』

青柳 かおり

Beilby Porteus, *A Letter to the Governors, Legislatures, and Proprietors of
Plantations, in the British West-India Islands*

AOYAGI, Kaori

大分大学教育学部研究紀要 第46巻第1号

2024年9月 別刷

Reprinted From

RESEARCH BULLETIN OF THE

FACULTY OF EDUCATION

OITA UNIVERSITY

Vol. 46, No. 1, September 2024

OITA, JAPAN

ビールビ・ポーティアス『イギリス領西インド諸島における 総督，立法府，プランテーション経営者への書簡』

青 柳 か お り*

【要 旨】 本稿は Beilby Porteus, *A Letter to the Governors, Legislatures, and Proprietors of Plantations, in the British West-India Islands* (London: Luke Hanford & Son, 1808)の全訳である。ロンドン主教ビールビ・ポーティアス(1731-1809)はイギリス領アメリカ植民地における異教徒，とりわけアフリカ系奴隷へのイングランド国教会による布教や教育に関心をもっており，プランテーションの奴隷の主人たちへ熱心に布教を説いていた。18世紀イギリスでは盛んに奴隷貿易が行われていたが，この著作が出版される前年，1807年の法律によってイギリス領内での奴隷貿易が廃止され，奴隷制が動揺し始めた。主人たちは奴隷がキリスト教教育や布教を受けることに反対し，宣教師を警戒する者が多かったが，ポーティアスは奴隷に聖書を読めるように学校を建設して教育することを提唱した。彼はキリスト教徒に改宗した奴隷は主人に従順な奴隷になると主張した。さらに，イギリスが世界中にキリスト教を広めていることは意義があり，名誉なことであると説いていた。

【キーワード】 ビールビ・ポーティアス イギリス領西インド諸島 布教 黒人奴隷 キリスト教

イギリス領西インド諸島における総督，立法府，プランテーション経営者へ

私の前任者[ロンドン主教ロバート・ラウス (Robert Lowth, 在任 1777-1787)]^{注1)}と私自身が長期間にわたってある程度役目を果たしてきた教会の監督において，私とイギリス領西インド諸島との公的な関係は，常に私にそれらの諸島の教会の福祉における強い関心を与えてきた。そして，諸島とこの国[イギリス]の間の広大な距離が許す限り，私にそれ[教会の福祉]を促進するための熱心な要求と努力を求めてきた。しかし，住民の様々な階級の間で，私の関心はとりわけ，すべての中で非常に人数が多く，すべての我々の諸島において大多数を構成する人々に向けられてきた。つまり，プランテーションまたはこの王国どちらかに在住している西

令和6年5月13日受理

*あおやぎ・かおり 大分大学教育学部社会認識教育講座 (西洋史)

インドプランターが所有する土地を耕作するために雇われた黒人奴隷である。

彼らについて私は20年以上気にかけてきており、彼らの状況およびその状況を改善する必要性について、そして、ある方法によって彼らの状況の改善を実行できそうであり、実行すべきである方法についての私の意見を、公に表明するために都合の良い機会を怠ることはなかった。ロンドン主教に任命された直後に、私はその諸島のプランターと経営者あてに、彼らがこれまでしてきたより、もう少し彼らの黒人奴隷に注意を払っていただきたい、そして、道徳と宗教の主義についての彼らの教育のためにより良い設備を作っていたいただきたいと懇願する書簡を送った。それから数年後、私は大法官裁判所の訴訟によって、ヴァージニアのウィリアム・アンド・メアリ・カレッジに属するヨークシャの所領を取り戻す幸運に恵まれた。その土地は偉大なボイル氏(Mr. Boyle)によって、異端の間にキリスト教宗教を普及させ進展させるために寄贈されていたのであるが、その目的は試みられたものの完全に失敗していた。私への寛大な判決を得ていたので、ボイル氏と会合した人々に、彼の最初の考えに可能な限り近い方法を取るほかの慈善組織を提案するために、私はその慈善組織の管財人の一人として大法官裁判所を訪ねた。非常に熟慮した結果、私はイギリス領西インド諸島における黒人奴隷の改宗および宗教的指導と教育のための組織を設立することを推奨した。それ自体は、大いに有用で重要な目的があり、国王陛下の領土に住む異端へキリスト教の恵みを伝えるというボイル氏の敬虔な慈愛の意図と完全に一致していた。その提案は大法官サーロウ(Lord Chancellor, Edward Thurlow)によって認められ、その目的のための協会が設立され、その法人のための国王の勅許状が得られた。そして、ロンドン主教が当面の間その会長に任命された。

それゆえ、この協会はその時から現在まで、その組織の偉大な目的を推進するために最大限の努力をしてきた。そして、様々な西インド諸島に何人かの宣教師を派遣した。彼らは各自の使命において進歩を成し遂げていた。しかし、この協会の乏しい収入のために、極度に骨の折れる困難な仕事に適した十分な人数の聖職者を探すことは大変、困難であった。彼らが任務を行う時に直面した様々な落胆と妨害や、教育すべき膨大な人数と比較して彼らの教育の手段は非常に不均衡であること、これらのことによって、これまで彼らの仕事の良い効果は狭い範囲内に限定されてきた。そして、より広範囲にわたる計画、よりリベラルな設備、より効果的な奨励と激励が偉大な目的の達成のためには必要不可欠なのである。今、私が勝手ながら紳士の皆様にこのとても興味深い主題についてもう一度申し入れるのは、この奨励とこの激励を得るためである。そして、私は最近起きた最も重要な出来事[イギリス領内奴隷貿易廃止法の成立]から、現時点があなた方へ私がこの要求の申し込みをするには、特に好都合であることを希望している。そして、私はそれを完全に成功させるであろう。

私がほのめかしている出来事が、イギリスの法律によるアフリカの海岸への奴隷貿易の廃止であることを、あなた方は容易に想像できるであろう。私はここでその大問題の功罪に立ち入るつもりは全くない。それは今、[貴族院・庶民院]両院の大多数によって可決され、我々すべてが従わなければならない法律になったのである。長く辛い争いの中で対立する党派によって感じられてきたすべての激しい感情が、すでに、またはまもなく完全に消えることを、そして、非常に完全な一致と良い理解が西インド諸島と母国の間で再確立することを、私は希望し期待している。ここで私がこの主題について言及する唯一の理由は、それが、今私があなた方に提示している主張とどれほど強く関係があるのか指摘するためである。そして、非常に重要な処置をすぐに実行するために、それ[奴隷貿易廃止法]がどれほど有力な主張をつけ加えるの

か指摘するためである。

通過した議会法によって、アフリカの海岸からさらに黒人奴隷を輸入することは禁止されたので、あなた方は今明らかに土地を耕すために十分な奴隷のストックを維持するためには、現時点で西インド諸島にいる黒人の自然増以外に蓄積は残されていない。それゆえ、あなた方の偉大な目的はもちろん、あなた方の権力において、すべての手段によってこれ[奴隷]の増加を促進し奨励することに違いない。今、このような手段の中で、すべての論争を超えて最も実行できる有効なことは、ここで提案されたことが非常に適切であろう。つまり、「あなた方の子どもと成人両方の奴隷をキリスト教主義において注意深く根気強く教育すること、そして、彼らの道徳的行為の規則に厳格な注意を払うことである。」これはおそらく一見、奇妙な主張に見えるであろうが、しかしながら、それは西インド諸島からこの政府へ送られた真正の書類によれば、完全な真実であり厳密な証拠なのである。

これらの書類は主に広く価値のある証拠を集めたものである。つまり、1788年に奴隷貿易の本質について調査するために任命された枢密院の委員会の報告書である。それらにおいて、非常に多くの尊敬すべき西インド諸島の経営者によって、そして、おそらく委員会へ彼らから提出された様々な公的な書簡において、以下のことが主張されているとあなた方は理解するであろう。イギリス領諸島における黒人奴隷の自然増に対するもっとも大きく致命的な妨げの一つは、乱雑で抑制されていない違法な性的交渉であり、黒人奴隷はどのようなチェックや抑制も受けずにそれを容認されている。これは一般的に認められており、次のことも同様に認められている。つまり、この放縦なやり方を効果的に止めなければ、地元生まれの黒人の出生の増加は、諸島の農耕が必要とする奴隷のストックを十分に維持することは決してできないであろう。この妨害はなんらかの方法やほかの方法で取り除かなければならない。どのようにしたら最も効果的になされるのであろうか？

黒人の間での違法な関係を禁止し、彼らに一人の妻との合法的婚姻による一致を要求する植民地の立法府による刑罰法が確かに制定されるであろう。しかし、以下のことが懸念される。人間の法はアフリカ人の本質である熱心で激しい情熱に対して、もろい障壁にしかならないであろう、そして、根深く長期間に渡って容認されてきた悪徳の習慣の強さと争うには役に立たないであろう。

これらは道徳的抑制によって、精神に染み込んだ新しい主義によって、神の恩寵の強い影響力によって、早い段階から強く魂に印象づけられた神への恐れと将来の罰則の恐怖によってのみ、緩和できるのである。これらはあなた方の黒人奴隷に、ただ一人の妻をもつよう制限されることを受け入れさせるために、効果がある唯一の刺激である。そして、あなた方のプランテーションの耕作地が必要とする、出生による奴隷の人数の増加にとって、この抑制は必要不可欠なので、あなた方の奴隷を単なる名目ではなく本当のキリスト教徒にさせることは、あなた方の利益であるだけでなく義務であることは非常に明白である。十分な人数の労働力の供給を得るために、そして、あなた方のプランテーションの完全な破壊を、少なくともそれらの農産物の多大な減少を防ぐために。

この理由によって、非常に多くの著名な西インド諸島のプランターが、上述の枢密院での審問において、強い言葉で黒人に道徳と宗教の基礎についての教育を勧めることをあなた方は分かるであろう。この理由によって、国王陛下の国务大臣が西インド総督へ宛てた1797年の書簡において、そのことが非常に強く強制されたのである。この理由によって、アンティグア島

のプランターが、(私が聞いたところでは) ^{注2)} そこで少なくとも一万人の奴隷をキリスト教宗教へ改宗させたモラヴィア派(Moravian)の宣教師へ援助と奨励を与えたのであった。

あなた方がこれらの熟慮、考察、意見に影響されて、奴隷にキリスト教の恵みを与えれば、(世俗的な観点においてさえ)あなた方自身にも利益を与えるであろうということは当然である。私はさらに、どのような方法で、この非常に好ましい目的が大変容易に効果的に完成されるのか考えていきたい。

これまで、異端の国民をキリスト教信仰へと改宗させるために追求された唯一の形式は、宣教師を彼らのもとへ派遣することによって、彼らに自分たちの宗教の誤りと大きな間違いを見せること、そして、それ[キリスト教]が彼らに要求する義務と福音の神の真実において彼らを教育することであった。この形式はとりわけローマ[カトリック]教会によって、非常に初期の頃から採用されてきた。ローマ教会は、布教聖省協会(the Propaganda Society)という名前で一般的に知られている系統立ったカレッジをその目的のために所有していた。そこではイエズス会が長年、主要な監督であり非常に活動的なメンバーであった。彼らの中国、インド、南米、世界中そのほか様々な地域への勤勉な布教は、長期に渡って社会の管轄下にあった。彼らは何年もの間大変な成功を収めたが、秩序がなくなったために、布教聖省協会の熱意と情熱は大いに衰えた。私たちは今、彼らがどの場所でも、個々のプロテスタントを[カトリック教徒へ]改宗させることに、依然としてとても活動的であるにもかかわらず、彼らが異教徒の国民をキリスト教徒へ改宗させることに大成功したということは聞いていない。

ほかの宗教的共同体の中で、改宗の任務において非常に際立って優れているのはモラヴィア派である。彼らは自身のことを同胞団(the United Brethren)と呼んでいる。彼らは本当に、危険や困難が抑えることができない、キリスト教の最初期の時代以来どの例もみられないような、熱意、情熱、忍耐、不屈の精神、精神の堅固さを示した。(同時に非常な優しさ、賢明さ、穏健さと結びついていた。) 彼らは地球のとても離れた地域まで浸透した。彼らは北はラブラドル、ラップランド、グリーンランドから南は喜望峰まで、最も残酷で野蛮な国民の間にキリスト教の種子をまいた。そして、(私はすでに気づいていたが)多くの西インド諸島、特にアンティグア島での黒人奴隷の改宗において特に成功してきた。しかし、これらの仕事場での非常に賞賛に値する働きを除いて、外国の布教団体の仕事において、ヨーロッパのプロテスタント教会によって多くのことはなされてこなかった。何人かの改宗がなされた東インドへは、デンマーク、ドイツ、イングランドによって少しの人数しか派遣されなかった。敬虔で本当に使徒的なシュウォーツ(Schwartz)によって、より特別なことが行われた。彼は大変忠実にまじめに思慮分別をそなえて、不屈の忍耐でもって布教を行ったので、先住民の信頼と愛情を得たのであった。それらは彼に、彼らに対する聖・俗両方の無限の影響力を与えた。彼らの心の中で永遠に彼の名前を高貴で神聖なものとし、神の宗教のためのとても気高い性質を作り出す大変な尊敬の念を印象づけた。そして、宗教の利益のための、気質の穏やかさ、自然で上品な様式、完全な実直、誠実、精神の高潔と、統一された熱心で活動的な熱意によって、何がなされたのかを世界に示した。

もし、200人か300人の宣教師を見つけ、東および西インド諸島へ派遣することができれば、私は一方でヒンズー教徒、もう一方で黒人奴隷のほぼ完全な改宗の望みを失うことはないであろう。しかし、悲しいことに、シュウォーツのような性格の人々は世界中であまりに少ないので、そのような目的のために彼らの多くが一緒に集められるという希望を抱いて、我々が

得意になることはない。本当に、今、（私は経験上気づいているのだが）海外布教を行う気質のある、そして適切にそれら[布教]を実行する資格をもつ聖職者を見つけることは極めて困難になってきているので、我々の諸島における黒人奴隷を改宗させ教育するために、これまで用いられてきたのとは違うほかの手段に頼ることが必要不可欠である。今、私があなた方の考察に対して提案しなければならないことは、運用は漸進的であるが、もし効果的に実行されれば絶対確実な結果になるであろう。

それは、西インド諸島のすべての教区に、教区の範囲と教区の奴隷の人数によって、各教区に一つかそれ以上の教区学校を設立することである。これらの学校はもともとベル博士(Dr. Bell)によってなされた計画に基づいて建設され、最初に彼によってマドラスに設立され、それ以来、彼によってこの国[イギリス]へ改良されて伝えられた。そこでは、それらは最も有益な効果を生み出し始めている。この国および東インド諸島両方において、すでにそれら[学校教育]によって生み出されたその独特の性質、卓越した優位、そして広範囲で有益な効果を、あなた方は書簡についての付録^{註3)}または追伸において十分説明されるであろう。その書簡を読んだ後で、私はあなた方が非常にまじめに考慮してくれるよう勧めるが、あなた方はそれ[学校教育]を自分自身の黒人に適用することに躊躇しないであろうと確信している。そして、もしも、上記で提示した理由で（あなた方がその意見を受け入れることができないとは私は思えないが）、あなた方の若い黒人への宗教的教育と指導が、彼らの肉欲を容認する致命的な不謹慎を抑制することが必要である、そして、そのような抑制は、あなた方の土地を耕すための現地生まれの奴隷の一定の供給を続けるためにも同じように必要である、という意見をあなた方がもつならば、これらの重要な目的を非常に容易に、効果的に、迅速に達成するためには、ここで提案された学校を採用することによってしか方法がないことに、あなた方は気づくであろう。

あなた方がその方法を決意したとして、次の問題はそれを効果的に実行するために十分な資金をどのように供給するのか？ということである。今、ベル博士の一つの偉大で優秀な計画のように、これには非常にわずかな出費で賄うことに困難はほとんどないであろうと私は理解している。この出費を支払うため、私は以下のように提案したい。

1. 広範囲で気前のよい一般的な寄付がこの国でなされるべきである、と私は信じている。私自身の教区[ロンドン主教区]では、特にロンドンとウェストミンスターの裕福な都市では、私はできる限りの影響力を行使してそれを促進したい。そして、私自身は500ポンドの金額から始めるつもりである。そして、もしもふさわしい時期に資金が必要になれば、いつでもその倍の金額を用意するであろう。

2. 私は以下のことを考慮することができる。黒人の世俗の幸福についての賞賛に値する関心をすでに明らかにしていたイギリス立法府は、彼らの宗教的な福祉について無関心ではないし、教区学校の設立を推進することによって、それを促進するための彼らの援助を拒むこともない。

3. イギリス領西インド諸島における黒人奴隷の改宗と宗教的指導と教育のための協会(The Society for the Conversion and Religious Instruction and Education of the Negro Slaves in the British West-India Islands)（私はその会長を務める名誉を得ている）は、権力をもっていると私は考えている。また、提案された計画のためにその適度な収入のいくらかを貢献しようとするとは私は確信している。その組織の一部は若い黒人を教育しており、その勅許

状によって、諸島へ宣教師だけでなく教師を派遣することが許可されている。

4. 最後に、もしも、これらの資金が十分ではない場合、すべての諸島における土地経営者にかかっている非常に少ない教区税が引き上げられるであろう。(彼らは現地生まれの黒人の増加において協会のすべての援助を獲得していて、そして、結果的にこれまでアフリカから新しい奴隷を輸入するのに費やしていた莫大な金額すべてを節約するであろうから) 彼らは正当にそれに反対することはできないと私は考える。

これらが、ここで提案された施設を支援するための十分な支出を供給する源泉であろうということをおぼろげに疑いえない。そして、プランターは数年以内に、経営者にとっては非常にわずかな支出で、若いキリスト教徒の黒人の集団を育てるであろう。奴隷は彼らの親切に対して、人口の増加によって、主人への誠実、勤勉、正直、まじめ、謙虚、従順と服従によって十分に報いられている。そのすべての美德は永遠の罰の苦痛のもとで、非常に厳格に神の宗教によって命じられている。その神の宗教において彼らは教育されるであろうし、それは改宗していない彼らの仲間の労働者よりもはるかに彼らを優秀にするのである。これは単なる主張や推論ではない。それは事実と経験、奴隷の行動によって証明されている。彼らはイングランドとデンマーク領諸島において、モラヴィア派の宣教師によってキリスト教宗教において教育され異教から改宗していた。そこでは改宗した黒人の人数は 24000 人以上になる。彼らは自身の低い身分に付随したすべての義務を誠実に実行することにおいて、改宗していない黒人よりもはるかに優れているので、彼らはプランターによって最も高い見積もりをされ、異端の同胞よりも高い値段で購入される。

それゆえ、私はあなた方が躊躇なくこの慈善のシステムを採用するであろうと自賛せざるを得ない。それは最初にいずれかの諸島の一つの教区で試行されるであろう。そして、もしも、それが(疑いなく)成功したら、もちろん、あなた方はそれを徐々にすべてのイギリスの諸島のすべての教区に広げていくように推奨するであろう。最初の段階は、それぞれの教区にベル博士の教育方法によってよく指導された適切な教師 (schoolmaster) を供給することに違いない。彼らはこの国からとても安い賃金で容易に得ることができるであろう。そして、その次は一つか二つの木造の建物を建設することに違いない。その面積はその教区のすべての黒人の子どもを収容するのに十分であり、学校の部屋としてだけでなく、神の礼拝に参加を希望する子どもと大人両方の黒人のための日曜日の礼拝所として使用されるであろう。彼らの子どもの教育が行われている間、そこで大人にもケアがなされるべきである。それゆえ、教師は日曜学校の教室に、子どもとともに彼らの出席を求める権限を与えられるであろう。

そして、彼らが居住する教区の聖職者はおそらく、同じ重要な目的のために彼の影響力と熱心な勧告を増加させる善良さをもつであろう。また、彼らのために短い形式の公的な祈禱を用意するであろう。その祈禱は典礼、使徒信条、主の祈り、十戒からの一定の最良の祈禱から成っており、特に詩篇、箴言、福音書、福音書の大変明白で実際的な部分、とりわけ主人への奴隷の義務に関する部分といった聖書から選んだ一部とともに成り立っている。教師はまた、彼らに、我々の英語で印刷された説教のいくつかから、ウィルソン主教(Bishop Wilson)のインディアンのための指示やデューク氏(Mr. Duke)の黒人への講義、そのほか、教区学校は完全に教区の主任司祭(rector)の監督下に置かれているのであるが、教区の主任司祭によって選ばれた同じ性質の刊行物の簡易版から、平易で役に立つ言説を彼らに読んであげるよう指示されるであろう。

これらの手段によって、大人と子供の黒人は宗教的教育の利益を享受するであろう。しかし、それを得るための十分な時間をもつには、黒人奴隷にその目的のために日曜日全体を容認する必要がある。おそらく、日曜日に彼らはプランテーションにおけるすべての労働から解放されているであろうから、彼らはすでにそれ[日曜日に教育を受けること]を許されている。日曜日は彼ら自身の日と考えられており、彼らが適切であると考えられる方法をその日を費やしている。このことは正に真実であるが、すべての人間にとって（彼らの状況や肌の色がなんであれ）、労働せず休憩する日、そして神の公的礼拝へ捧げる日という安息日の本来意図された慣例によって、安息日を彼らにとって本来の安息日にするというものを妨げる、二つの大変不幸な状況がある。

その状況の一つは、彼ら自身の土地で少しの作物を耕作するために、毎週のうち一日、または一日の一部が必要なことである。その必要性によって、彼らは日曜日の一部をその目的のために費やす必要がある。もう一つは、日曜日に開催することが許可されている公的市場である。そこでは、黒人は自分の土地の生産物、家禽、果物、野菜を売りに行く。そして、彼らは一般的にその日の残りを、キリストの安息日の神聖さと真剣さにはあまり適切ではない祭りや娯楽に費やしている。

このように、これらの貧しい哀れな人々には以下のことが許され、ある程度は余儀なくされている。聖典の教訓や神が明白に述べた[モーセの十戒の]神の四番目の絶対的な命令とは正反対の目立つ方法で主日を冒瀆することである。「安息日を覚えて、これを聖とせよ。六日のあいだ働いてあなたのすべてのわざをせよ。七日目はあなたの神、主の安息であるから、なんのわざをもしてはならない。あなたもあなたの息子、娘、しもべ、はしため、家畜、またあなたの門のうちにいる他国の人もそうである。」

私はあなた方紳士の皆様に、この全能の神の絶対の禁止令を本当に深刻に考え、黒人奴隷の実際に許可された慣習とそれを対比するよう、大変熱心に懇願したい。あなた方は、偉大な宇宙の統治者が彼らにしないようにと命じることを彼らがするかもしれないと、実際に述べるであろうか？あなた方は解決のつかない神との戦いを続けるのか、あなた方の造物主の権威を無視するのであるか。または（あなた方はそうすると私は確信しているが）神の奉仕に対して適切に割り当てられたその[安息]日におけるこれらの冒瀆を、つまり、あなた方の奴隷に一週間のうち数時間を彼らの土地を耕すために許可したり、彼らの商品のための市場を日曜日から一週間のうちの別の日に移動させたりして、安息日を冒瀆することを、すぐにやめさせるようにより熟考しないのであろうか。

これによって、あなた方は土地を耕作するための少しの時間、つまり一週間のうちの一日を失うことになるが、あなた方はこの小さな寛容によって奴隷の心を得るであろうと私は自認している。それによって彼らはあなた方に感謝して、倍の勤勉さで、彼らの仕事をほかのすべての日に行くことによって、このささいな損失をすぐに十分に埋め合わせするであろう。あなた方はまた、世俗的関心においても神の祝福を得るであろう。それはあなた方のすべての奴隷のすべての労働を合わせたよりも、よりあなた方の役に立つであろう。

黒人の子どもに関して、教区学校に彼らが出席するための時間の問題について困難はないであろう。彼らの教育期間は非常に初期で、彼らが労働に適するようになる前、または農地で使用できるようになるよりも前であろう。そして、彼らが労働に適するようになった時でさえ、あなた方はこの付録[巻末に収録されているベル博士からポーティアスへの書簡]において、一

日のうち二時間か三時間、学校に出席すれば十分であると分かるであろう。そして、その日の残り時間すべてで、彼らは可能な仕事においてプランテーションで雇用されるであろう。

このように、あなた方の黒人の若者はすべて、大変短期間で道徳と宗教の主義を教育される。そして、異端の恐怖と迷信から救われた、「燃えさしとして火から取り出された」、新しい多数のキリスト教徒の国民という好ましく興味深い光景を、西洋世界に対して示すであろう。そして、これは、彼らの所有者にとって非常にささいな出費で、最も容易で迅速な方法でなされ、彼らのプランテーションの耕作への相当な利益によって十分に報われる。(私が提示したように) その利益はそれ[奴隷の宗教教育] から生じるであろう。

提示された計画にとって、おそらく二つの障害が妨げになると私は思っている。第一はプランターが彼らの黒人の子供に読み方を教えることに対して、大変残念な偏見をもっていることである。読み方は彼らのすべての宗教的な教えの基礎になるに違いない。プランターは以下のように主張した。彼らにこの能力を与えることは大変危険になる。なぜなら、それによって彼らは、反乱を起こしたり主人に不服従をするよう扇動したり、すべての良い秩序や良い統治に敵対する、大変有害な教義に満ちた新聞とパンフレットを読めるようになるからであると。これが事実であるならば、私はあなた方の尊敬すべき集まりの中の誰かと同じように、その提案に強く敵対するであろう。しかし、本当の事実はこれよりもさらに根拠のない想像ではないのである。逆に、疑いようのない真実は以下のようなものである。読む能力は、黒人だけでなくすべての階級の人々を、そのような邪悪な書物によって腐敗するのを防ぐまさに最良の手段なのである。そのような種類の刊行物が彼らにたどりつくであろう。もしも彼らがそれらを自分自身で読むことができないならば、彼らは他人にそれらを読んでもらって聞くであろうし、きっとそうする。そして、それらの反証を何も読むことができないので、もちろん彼らはそれらを疑いない事実と受け取り、邪悪で下心のある人々によって容易に致命的に欺かれる。

もし黒人奴隷がその問題の反対側で主張されていることを読むことができるならば、彼らはおそらく自分たちの前に置かれた罠から逃れるであろう。このことは、フランス革命と先のアイルランド反乱において非常に明白に例証されている。そこでは、このような恐怖の状況において非常に活動的で残酷であった不幸な哀れな人々の大部分は、無知で愚かであって文字を用いることのできない人であった。それゆえ、彼らは容易にだまされ、彼らに真実を悟らせるのは容易ではなかった。逆に下層階級でも一般的に読み方を教えられているイングランドでは、事情はかなり異なっている。ここでの普通の人々の多くは本当に最初は少し動揺しており、しばらくはフランス革命の狂信的支持者、特にトマス・ペインと彼の弟子たちの、この王国中に大変なあつかましさと勤勉さで広まった、大胆で放蕩な主義によってだまされていた。しかし、彼らはすぐにこのうわごとから回復した。彼らは無政府と無宗教の扇動者の邪悪な策略を見抜いた。彼らは彼らの周りの恐ろしい危険を見ており、活力をもってそれらと戦い、実際にそれらを追い払うことに成功した。

何がこの幸福な変化のきっかけだったのであるだろうか？その理由は、共同体の上流は書くことができ、下層は読むことができることである。20年以上前に、30万人以上の貧しい子供たちが、この王国のさまざまなチャリティ・スクール、日曜学校、工場学校で宗教的に教育され、みごとな言説、説教、さまざまな種類のパンフレットを読み理解できている。この国の俗人と聖職者両方の間の大変有能で有徳な人々が、とても低い階級の人々のためにそれらを書くことに従事したのである。それらを彼らの理解できるレベルまで下げて、共同体の中の大変劣

った階層の無知ではなくて知識に対して大変強力にアピールしたので、彼らは自分たちの周りの危険に気づき始め、破滅から救われた。紳士の皆様、これらはあなた方が完全に真実であると分かる事実である。そしてあなた方の心の中でよく考察した後に、あなた方の黒人の子供に読み方を教えるのを許可することによる危険の心配は、もはやわずかなものさえないと私は考えている¹⁾。

西インド諸島への教区学校の導入を妨げているもう一つの反対は、何人かの経営者が抱いている、彼らの黒人を良いキリスト教徒にすると彼らが悪い奴隷になるという考えである。彼らに洗礼、礼拝、聖餐式を認めることによって、ほかの福音の恩恵と利益を認めることによって、それらは彼ら自身の水準にあまりに多くをもたらす。彼らの状態を超えて彼らの思想を高め、高慢と野望を引き起こす。彼らを労働に適さないようにして、彼らの卑しい立場の義務を果たさないように、彼らの主人に従順に服従しないようにする。

しかし、そのようなことが可能なのか、また、実際、真実のキリスト教がそのような結果を招いたであろうか？それはまったく信じられない。謙虚、満足、忍耐、服従、主のためにすべての人の法令への従順を熱心に説き聞かせる宗教が、野望、高慢、不満、合法的権威への抵抗をもたらすことができるであろうか？そのうえ、イングランドの法律は専制政治、暴政、抑圧、迫害を促進する傾向があると断言されるであろうか。しかし、その主題について推理する必要はない。私たちは経験と事実へ向かうであろう。

私がすでに述べたように、いくつかのイギリス領の諸島、特にアンティグアで何千人もの黒人奴隷がキリスト教徒へ改宗した。彼らにはどのような問題があるのか？改宗によって、彼らは高慢で横柄で労働しようとはせず、主人に反抗的で服従しなくなったであろうか？まったく逆である。彼らは節制、勤勉、正直、忠実、主人への愛着において、改宗していない奴隷よりもはるかに優れている。すべての経営者は彼らを獲得できるか心配しているが、すでに私が述べたように、それ[改宗]は黒人の異教徒の兄弟よりも高い値段を彼らに与えるであろう。

彼らが非常に明白に信じている神の宗教が、現世では神の不快で苦痛の、来世では最も厳しい罰のもとで彼らに命令していることを我々が思い出す時、異教徒の労働者に対するこの優越性を、我々にはなぜ驚くことができようか。「召し使いたち、心から恐れ敬って主人に従いなさい。善良で寛大な主人にだけでなく、慈悲深い主人にもそうしなさい（ペテロの書簡 1, 第 2 章第 18 節）。奴隷には、あらゆる点で自分の主人に服従して、喜ばれるようにし、反抗したり、盗んだりせず、常に忠実で善良であることを示すように勧めなさい（テトスへの書簡, 第 2 章第 9, 10 節）。人にへつらおうとして、うわべだけで仕えるのではなく、キリストの奴隷として、心から神の御心を行い（エフェソの信徒への書簡, 第 6 章第 6 節）、奴隷たち、どんなことについても肉による主人に従いなさい。人にへつらおうとしてうわべだけで仕えず、主を恐れつつ、真心を込めて従いなさい（コロサイの信徒への書簡, 第 3 章第 22 節）。」

もしも、誰かが、ある奴隷を自分の意向にそって形成したいならば、彼は明確にこのこと[奴隷をキリスト教徒に改宗させること]よりもその目的に適応するように、奴隷を形成できるであろうか？それゆえ、改宗した黒人から自然に期待されるように、黒人の精神と行為にそのような効果が生じてきた。

私がこれまで聞いたもっともらしい反対、すなわち、黒人奴隷にキリスト教を導入することへの反対にこのように反論し、そのような方法は彼らの永遠の利益だけでなく、あなた方の現世の利益の助けになるであろうと示したので、この考えが、ここでなされた提案をあなた方が

決意するのに十分であることを私は希望している。しかし、紳士の皆様、私に次のようにつけ加えさせていただきたい。私はこの大きな問題を、決して私的または公的有効性ではなく、もっと高度で高貴な主義、つまり正義、人間性、宗教、義務の主義という理由で信じているのである。それによって、あなた方が最も絶対的な支配力をもっている多くの人種の肉体と魂の世話をするために、あなた方は人間としてキリスト教徒として、非常に神聖な結びつきによって結合している。

彼らは身体と心の両方すべてあなた方のものである。彼らはあなた方の独占的な全くの財産である。彼らの幸福な生活は全面的に皆様の手にある。彼らの幸福や不幸は絶対的に皆様の彼らへの世話次第である。彼らをすべて所有することによって、皆様は彼らに現世と来世両方で責任がある。彼らは自分たちの主人、統治者、守護者、そして保護者として、彼らにより良い世界への道を開くことのできるガイドとして皆様を尊敬している。そして、彼らはいたずらにあなた方を尊敬したりはしないであろうと私は信じている。本当に彼らに払われるべきものは恩恵である²⁾。彼らが強く求める実現可能な同情の行為である。

何世紀もの間、イギリス国民とイギリス諸島がアフリカからの奴隷の輸入において占めている非常に大きいシェアによって、何千、何百万人という無実で無害の人間が自分たちの故郷から、すべての価値ある恵みから、すべての彼らのもつ結びつきから引き離されて、自分たちの意思とは正反対に知らない人々のところへ運ばれ、「永久の隷属」に運命づけられた。その隷属は、彼らが死亡する時に彼らの最後の子孫が相続する。(彼らが残す唯一の遺産である。)これらは確かに賠償を必要とする受難である。そして、現世で彼らの運命がとても不幸だったので、彼らに来世での永遠の幸福の可能性の道を切り開くという賠償よりも、彼らに福音の恵みをもたらす、さらに良い適切な賠償がありえるのか。これは親切で慈悲深い、非常に高度で高貴な形の慈善の行為であろう。そして、最も広く本質的な善を生じるであろう。一方、それはあなた方に何も費やさせることなく、その目的にとってはかけがえのない恩恵となるであろう。

それ[黒人奴隷への慈善]は彼らの心にとっての強心剤、彼らの苦勞の支えとなるであろう。それは彼らの精神を、宗教のすべての慰めによって和らげるであろう。それは隷属状態自体であってさえも、彼らに光をもたらす。来世での永遠の自由と幸福の希望によって彼らの魂を励ますであろう。彼らの労働への意向を減らす代わりに、それは勤勉さと希望を増加させるであろう。(すべてのことにおいて彼らの主人を喜ばせるために、自分たちが信仰している宗教の命令に従って。)それは主人たちへの愛着を倍増させ、愛情と感謝の最も強い結びつきによって、すべての彼らの義務である仕事へ彼らに義務を負わせる。

紳士の皆様、あなた方は報酬が得られないのではなく、人間が得られる賞賛の中で最も高貴な神の賞賛とすべての世界の拍手を得られるであろう。

あなた方は大西洋上に敬虔と美德のための新しい学校を設立するという、不滅の名誉を得られるであろう。そして、西洋世界の宗教と道德の高貴な建造物を建て、真実のキリスト教徒の黒人の非常に大きい共同体という興味深い光景を人類に示すという、そして、(非常に大きい無知、迷信、邪悪、偶像崇拜におちいった)50万人以上の人間を、すべての彼らの無数の子孫とともに救いへの道を導くという不滅の名誉を永久に得られるであろう。

この偉大な出来事の成果を私は自信をもって楽しみにしており、それはある程度、今、我々のすべての側を通り過ぎていく恐ろしい光景の中で、そして、居住することができるほぼすべ

での地球上の、その中心を震撼させているこれらの恐ろしい混乱の中で、私の精神を慰め励ましている。それは多くのほかのことに加えて、イギリス国民の高貴で気高い性格のもう一つの証明になるであろう。そして、地上のほかの国民の意見を超えて、意見の広がりや偉大さの証明になるであろう。一つの巨大な力が世界中で破滅、荒廃、そして非常に複雑な災いを広め、王国、帝国、そして長く確立してきた統治を転覆させ、市民社会と政治社会のすべてのとても神聖な絆を断ち切って、ばらばらにしている。しかし、その一方で我々は以下のことを分かっている。この小さい島がそれ自身の防衛において気力をもって努力し、ヨーロッパ全大陸を圧倒している急流に対して逆らっているだけでなく、同時に静かに平静に、すべての場所に聖書を広め、地上のすべての場所にキリスト教の種子をまくことによって、人間の未来の幸福を供給していることを。

私は、ベンガルで十個もの東洋の言語へ聖書を翻訳するために、広大なインド大陸中にそれらを配布するために形成された協会について言及したい。そして、この国で最近形成されたイギリス外国聖書協会(the British Foreign Bible Society)と呼ばれる類似した組織についても言及したい。その主な目的は、聖書の外国語への翻訳および異教徒とイスラムの国々に聖書を普及させることである。これら両方の協会は最近組織されたのであるが、それらの慈善の企画において目覚ましい進歩を遂げてきた。

アジア協会(the Asiatic Society)はすでに、聖書のいくつもの部分をインドで最も共通の東洋の言語に翻訳した。サンスクリット語の最初の二つの福音書は 1806 年の終わりまでには準備ができていた。そして、その言語におけるすべての四つの福音書は、ギリシャ語の活字が入手できればすぐに、反対頁にギリシャ語をつけて（それは完璧に調和している）出版されるであろう。マルハッタでは四つの福音書が印刷された。オリッサの翻訳は非常に進歩が速い。ペルシアでは詩編の書物が完成した。協会の基金によってそれらの翻訳が実行されればすぐに、聖書をチベット、ブータン、ビルマ、アッサム、マレー、オリッサ、テリング、そして中国の言語への翻訳を開始することが意図されている。

そして、最近、根気強く敬虔なブキャナン博士(Dr. Buchanan)によってなされた非常に好奇心をそそる発見は、すべてのこれらの翻訳がよく理解され、そしてインド半島の大部分に最高の効果を作り出すという大変根拠のある希望を与えるのである。

同じ成功が、イングランドで同じ目的のために設立されたイギリス外国聖書協会に期待されるであろう。それはすでに三年間の短期間において、ほぼすべての地上にその事業を拡大した。

それ[イギリス外国聖書協会]の援助によって、ドイツとプロイセンにおいてそれ自体と類似した組織が設立され推奨された。前者によってドイツ語のプロテスタント新約聖書が 5000 部印刷され、後者によってボヘミア語の聖書がボヘミア、ベルリン、そのほかの場所でプロテスタントが使用するために印刷の途中である。[イギリス領ニューヨーク植民地の先住民の]モホーク語のヨハネによる福音書 2000 部がその協会の出費でロンドンにおいて印刷されて、大河沿いのモホーク族へ配布された。そして、さらに 500 部がすぐにセント・ローレンス川下流のモホーク族へ送られるであろう。コペンハーゲンではアイスランド語の新約聖書 2000 部がその協会の出費で印刷され、アイスランドへ送られた。その協会によって 1000 ポンドを 2 回に分割して、ベンガルで今進行している、聖書の 10 個の東洋言語への翻訳のために支出してきた。私自身はこれらの翻訳の見本を見てきた。カスピ海の境界線沿いのカラにおいてトルコ語の聖書を 5000 部印刷するために、協会によってアラビア語の活字と紙が支給された。このト

ルコ語の翻訳の美しい見本を私も見たことがある。新約聖書はアイルランドへ送られ、20000部の適切なゲール語聖書が今、印刷されている。英語とウェールズ語の聖書がケンブリッジ大学の監修のもとですべて印刷されている。新約聖書はまた、ウリッジの服役囚、ニューゲートやそのほかの監獄の囚人、マーゲイト、ゴスポート、ギルフォード、ダブリン、そのほかの場所のドイツ人兵士と水夫へ、エセックス海岸の海軍国防兵、戦時下のフランス人とスペイン人の囚人へ供給された。外国では、喜望峰のイギリス兵へ、ニューファンドランド、ハリファックス、ノヴァスコシアの住人へ、ヴァン・ディーマンズ・ランド[タスマニア]の定住者へ、サン・ドミンゴのフランス人、ブエノスアイレスのスペイン人、ニューサウスウェールズの入植者へ、そしてフランス、スイス、ドイツの異なる地域の人々へ供給された。

要するに、その事業の範囲を北から南へ、つまりアイスランドから喜望峰とヴァン・ディーマンズ・ランドへ、または東から西へ、つまりインドとカスピ海沿岸からブエノスアイレスと北アメリカの湖へ、測定してもしなくても、いずれにせよ、その範囲は広大である。そして、その組織の慈善事業にとっての限界は、その基金の金額にほかならないと思われる。本国と外国両方の新しい寄付者の一定の加入によって、(ヨーロッパほぼすべての部分で、それはよく知られ多めに賞賛されているため)その基金は現在、十分な供給があるようである³⁾。

これらの成功した努力は、慎重で大いに尊敬すべき会長ロード・ティンマス(Lord Teignmouth)の監督のもとで、この王国で最も偉大な何人かの人物の支援と賛助をこの協会に確保した⁴⁾。そして、彼らの国家への奉仕において非常に顕著な人々が、地上のすべての地域でのキリスト教の普及、宗教の主義の促進において同等の熱意と情熱を見せたこと、それはこの国民に最高の名誉をもたらしている。

これらの二つの同種の協会へ、広大な大陸の文明化と改善のために最近設立されたアフリカ協会(the African Institution)を、我々はつけ加えなければならない。それは、この国家の非常に名高い多くの人々によって、彼らの政治的、宗教的意見は広く異なっているが、支援されている。そして、その緊急の目的はアフリカにキリスト教を導入することではないにもかかわらず、もしもそれがその初期の目的において成功したら、先住民の文明化は疑いなく最後は彼らの改宗へ導くであろう。

もしも、ヨーロッパ、アジア、アフリカで福音を普及させるためのこれらの尊い努力に対して、紳士の皆様が西インド諸島のあなた方の黒人奴隷にキリスト教を導入するために、援助を追加するという優しさをもたれるならば、地球上のすべての場所でキリスト教を確立するために準備された基礎が存在するであろう。皆様は、イギリス帝国のすべてのほかの支部[西インド諸島以外の地域のアフリカ協会]の模範に従うことに、そして、アフリカ協会が採用した包括的で高貴な計画に同意することに、高貴なプライドを感じるであろう。

これらは本当に「帝国の業務」であり、イギリスの名にふさわしい。これらは最後の子孫までそれ[イギリス]に永遠性を与え、見事にそれをこの世界のほかのすべての国家と区別させる。

これらをイングランド国民の特質的な特徴にしよう。人間の解放と慰めの大敵には、彼の栄光を一般的な支配力に配置させよう。イギリスにはそれ[栄光]を一般的な慈善の中に配置させよう。そして、彼[人間の解放と慰めの大敵]が武力によって世界を征服している一方で、イギリスは、イギリス自身の海岸から彼を撃退すること、苦しんでいる人々を援助し保護すること、遠く離れた国家に様々な方法でキリスト教の啓示の恵みを伝達することによって、その国々の状態の改良に従事しよう。すべてのことの最後の結果は神の手中にある。しかし、それが何で

あろうと、どのような未来の不幸な出来事が我々を待っていようと、我々は人間として、そしてキリスト教徒として、少なくともこの場合は我々の職務を果たしたという慰めを得るであろう。そして、我々は合理的に以下のことを希望する。そのような行為は、我々と我々の主義を神の恩恵に好ましいものにするために、これまで王国の消滅と帝国の崩壊の中で我々を保護してくれた、今、見たところでは我々を取り囲んでいる危険に劣らず恐ろしい危険から我々を救ってくれた、寛大な神の摂理の保護を我々が得るために正当な影響力をもつであろうと。

紳士の皆様

敬具

あなた方の忠実で愛情深い友人、しもべ

フラム・ハウス

1808年6月1日 ロンドン主教

解説

本稿はロンドン主教ビールビ・ポーティアス(Beilby Porteus, 在任 1787-1809)がイギリス領西インド諸島の総督、立法府、プランテーション経営者に向けて書いた書簡 *A Letter to the Governors, Legislatures, and Proprietors of Plantations, in the British West-India Islands* (London: Luke Hanford & Son, 1808) の全訳である。黒人奴隷の主人に対して、ポーティアスは奴隷への学校教育を推進するよう強く勧めていた。この書簡が刊行された前年の1807年に、イギリス議会においてイギリス領内の奴隷貿易を廃止する法律が制定されていた。西インド諸島の奴隷の主人はサトウキビのプランテーションのために、多くの黒人奴隷を必要としていたので、彼らにとって奴隷貿易の廃止は打撃であり、彼らは不利な状況に陥っていた。さらに奴隷の主人は、奴隷に教育を与えキリスト教を布教しようとする宣教師の活動や奴隷の解放を警戒していた。教育に労働時間を取られるだけでなく、奴隷が知識を得て従順でなくなり反乱を起こすとか、奴隷がキリスト教徒に改宗すると自由になると考えられていたのであった。そのため、主人たちは布教に反対する者が多かった。一方、ポーティアスは学校教育と布教を推進しており、植民地のプランターに対して理解を求めていた。本稿では、奴隷にキリスト教教育を行うことの主人にとっての利点を説いている。また、イギリスの様々なキリスト教団体によって聖書が他言語に翻訳されて、アジアをはじめ世界中の様々な地域に広まっていることを述べている。そして、どれほど困難であってもイギリスが慈善の精神をもってキリスト教を世界中に広めていることを称賛し、イギリス人の慈善活動の意義と名誉にも言及している。19世紀初期の奴隷貿易・奴隷制廃止という主人にとって不利な時代の中で、彼らは奴隷への布教や教育に警戒し反対していた。奴隷の主人に対して、このように奴隷への教育を熱心に勧めている本書は重要であると思われる。

なお、ポーティアスの経歴については、訳者は以前、ポーティアスの別の著作の翻訳「1783年2月21日金曜日、セント・メアリ・ル・ボウ教区教会における海外福音伝道協会の年次記念大会で述べられた説教」『大分大学高等教育開発センター紀要』13号(2021年)

の解説において記述した。

注

注1) 本文中の[]は訳者の補いである。

注2) 本文中の()は原著に記載されていたものである。

注3) 原著巻末の付録。1807年12月21日、ベル博士からポーツマスへの、貧しい人々のための教育について書かれた書簡が収録されている。

原著注

1) 口頭による教育は、黒人奴隷を良いキリスト教徒にするのに十分であろうと言われてきた。記憶力と理解力が良い人たちにとっては、それは成功するであろう。しかし、多くの愚かなアフリカの黒人にとってはそうはならない。彼らは彼らの精神に残る非常に強い印象を要求する。聞くことよりも読むことによる方が、より強く永続的に印象づけることができると我々は知っている。

ローマの詩人[ホラティウス]が何世紀も前に述べたことは、今ではことわざになっていると言ってもよい。「我々が単に耳で学んだことは、信頼できる目に現れたものよりも、我々の精神に残す印象は少ない。」

しかし、これのほかに、それ[読む能力]は黒人に教会と家で彼らの聖書と祈禱書を読むことができるよう無限に使用されるであろう。それは主日の彼らの時間にとって有益で適切に使用されるであろう。それは、彼らが不適切なやり方でそれを費やす状態に戻ることを防ぐであろう。それは彼らにとって一定の楽しみ形式になるであろう。聖書は最も重要なものであるだけでなく、世界で最もおもしろい書物の一つだからである。特に、それを読むことに大変な喜びを感じると一般的に考えられる普通の人々にとって。そして、旅行者たちによって以下のことが述べられてきた。特にスコットランドでは、夏の夜の主日に彼らはドアの前に座って、明らかに大いに注意深く喜びをもって彼らの聖書を読んでいると。

また、ここで提案された計画では、黒人の子どもには書き方を教える意図はなく、読み方だけを教えるということを出すべきである。それ[書く能力]は常に区別の強い印であり、彼らと白人住民との間の隔壁である。それは常に彼らと彼らの優越者との間の区別と服従を維持するであろう。そして、彼らが彼らの主人と同等だというようなものへ接近することに対する、越えることのできないバリアを提示するであろう。

2) 何人かの西インド諸島の経営者とこの国における少数の人々でさえ、黒人は人間よりも劣った人種であり、救われる魂をもっていないと考えていた時代があった。神のおかげでそのような時代はかなり前のことである。彼らの黒い肌と遅い理解力にもかかわらず、彼らが我々と同様に不滅の魂をもっていると認められるならば、ここでの彼らの宗教的教育に賛成する主張は回避や拒否されえない。

3) イギリス外国聖書協会の三番目の報告書を参照。

4) カッシュル大主教(Archbishop of Cashel)、ロード・バラム(Lord Barham)、ロード・ガンビア(Lord Gambier)が最近、その副会長のリストに加えられた。

Beilby Porteus, *A Letter to the Governors, Legislatures,
and Proprietors of Plantations, in the British West-India
Islands*

AOYAGI Kaori

Abstract

Beilby Porteus, the Bishop of London, who was interested in the missionary work and education for the heathens, especially African slaves in British America, tried to urge the missionary work to the masters of the slaves. The Act of abolition of the Slave Trade which has passed in 1807, prohibited any further importation of African Slaves to the British colonies. Although the masters opposed the instruction and conversion of the slaves, Porteus insisted the instruction of the African slaves in the Christian faith in schools. He advocated that the slaves who have been converted from Paganism and instructed in Christian religion would obedient to their masters, and far excel the unconverted African slaves. He suggested that the British endeavored for the dissemination of the Gospel in Europe, Asia, and Africa, and these are truly imperial works and worthy of the British name.

【Key words】 Beilby Porteus, British West-India Islands, missionary work, African slaves, Christianity